

オンライン PBL チュートリアルの実施報告ならびにその効果と課題

西田憲生^{1,2}、清水 真祐子^{1,2}、常山 幸一^{1,2}、赤池 雅史²

徳島大学医学部教育支援センター¹

徳島大学大学院医歯薬学研究部²

1. はじめに

全国的な COVID-19 感染拡大を受け、本学では、2020 年 4 月より遠隔講義を主体とした授業態勢で始業した。例年、医学科 3 年生 1 月から 4 年生 10 月まで、Problem-based Learning (PBL) チュートリアルを実施しているが、10 人程度の小グループがチュートリアル室で討論をするため、いわゆる「3密」状態を避けることが困難であった。このため、対面式からオンライン式へ移行して PBL チュートリアルを実施することとなった。

本発表では、オンライン PBL チュートリアルに関する学生アンケート・教員アンケートの結果に基づき、オンラインと対面式との PBL チュートリアルの比較を行う。また、現状でのオンライン PBL チュートリアルの課題を明らかにし、オンライン上でのグループワーク実施における改善点について議論する機会としたい。

2. チュートリアルコアタイム

PBL チュートリアルは、症例シナリオをもとに臨床推論や診断的・治療的臨床決断を含め、問題解決レベルの知識を習得する問題基盤型学習法である。学生は、症例シナリオの臨床の文脈に沿って、グループ内で意見を出し合い、事実→仮説→知るべきこと→自己学習→問題解決のプロセスを繰り返す。このため、グループ内での自由討論は、学習効果を高める重要な要素である。また、チューターは、問題基盤型の自己学習を行うための支援・推進役として、学生の議論を見守り、必要に応じてアドバイスをする。

本調査で対象となった学年は、2020 年 1 月から 3 月までは、PBL チュートリアルを対面式で実施していたが、COVID-19 感染拡大後の 6 月から

10 月は、Microsoft Teams (以下 Teams) を用いたオンライン式で実施した。オンライン PBL チュートリアルでは、学生が進行役(司会)を務めた。また、書記役の学生は、グループ討論で出された意見を学習課題シート (Excel ファイル) に書き込み、Teams の画面共有機能を用いてグループメンバー内で共有した。また、コミュニケーションを円滑にするために、学生にはカメラをオンにした状態で参加することを推奨した。自己学習成果は、Teams 上でファイルを共有し、ひとりずつ口頭で発表した。

3. 本調査について

本調査は、2020 年度医学科 4 年生の PBL チュートリアルに履修登録されている 124 名を対象に、導入初期 (6・7 月期) と導入後期 (8-10 月期) の 2 回に分けてアンケートを実施した。学生に対しては、「Teams を用いたチュートリアルコアタイム(対面式との比較について)」(7 月実施、記名式) と「系統別病態診断コースについてのアンケート」(10 月実施、記名式) の結果を解析した。また、チューターを担当した教員には、「Teams を用いたチュートリアルコアタイム (チューター向け)」(7 月・10 月実施、いずれも無記名式) のアンケートを実施し、その結果を解析した。2020 年 11 月 2 日時点での各種アンケートの回答者数と回答率は以下の通りである (表 1)。

4. 分析結果

オンライン PBL チュートリアル全体の学習効果に関しては、90%以上の学生が「対面式と同程度以上の効果がある」と回答した。さらに、約 25% の学生は、「対面式より学習効果が優れている」

表1 学生とチューターを対象としたアンケート

	回答数 (人)	回答率 (%)
学生対象		
6-7月期	103	83.1
8-10月期	106	85.5
チューター対象		
6-7月期	20	55.6
8-10月期	27	37.5

と評価した。一方、チューターは、学生よりやや評価が低いものの、約85%のチューターが「対面式と同程度の効果がある」と評価した(図1)。これらは、導入初期(6・7月期)と後期(8-10月期)では、その評価に変化はみられなかった。

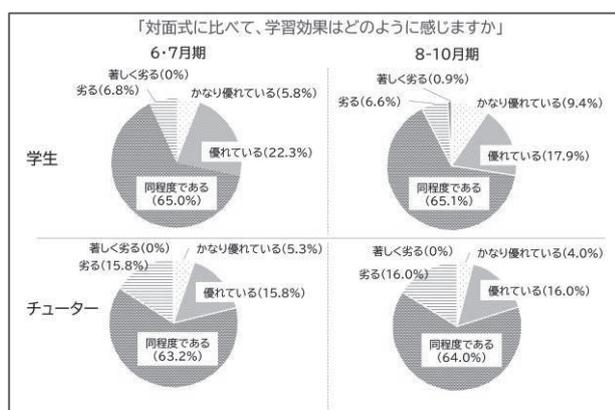


図1 学習効果に関する評価

グループ討論に関しては、オンライン式を導入初期は、20%の学生が「対面式より討論ができていない」と評価したが、8-10月期では、その比率が10%まで減少していた。一方、チューターの評価では、8-10月期においても、「対面式と比較して、討論ができていない」と評価するチューターが32%存在した(図2)。

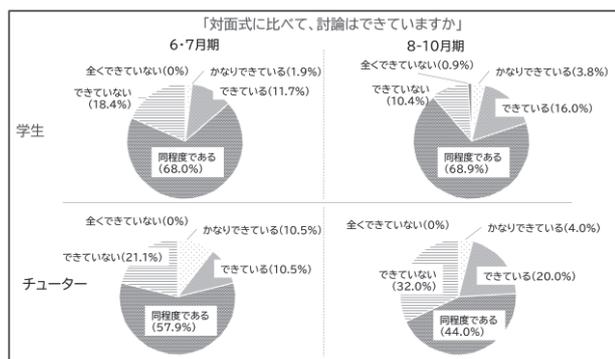


図2 討論に関する評価

自己学習成果発表は、導入初期から、学生の95%以上が、「対面式と同等かそれ以上にできている」と評価し、チューターの約90%も同様の評価であった(図3)。

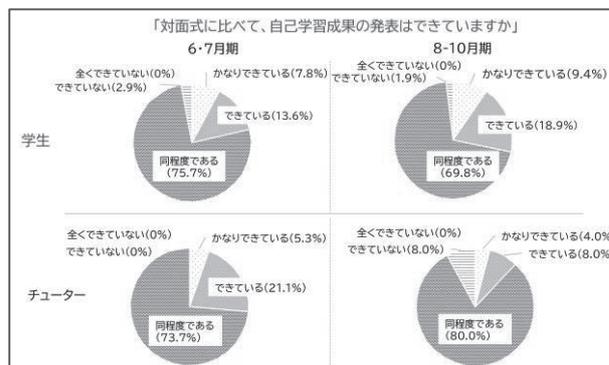


図3 自己学習成果の発表に関する評価

Teamsを用いたチュートリアルコアタイムの継続については、学生、チューターともに約30%が、対面が可能でもTeamsによるオンラインPBLチュートリアルの実施を望んでいた。また、オンラインPBLチュートリアルに否定的な意見は、極少数であった(図4)。

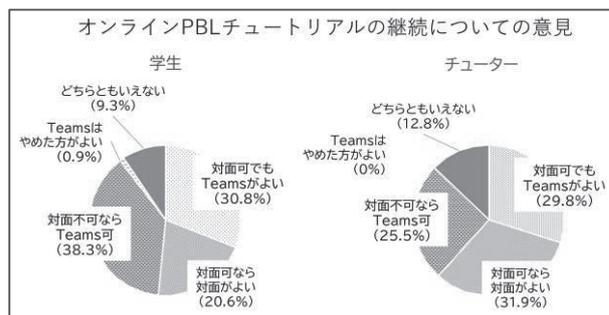


図4 オンラインPBLチュートリアル継続についての意見

5. まとめ

COVID-19感染拡大のために、十分な準備期間がない状況下で開始したオンラインPBLチュートリアルであったが、全体の学習効果は、「対面式と同程度」以上の評価の意見が最も多く、自己学習成果の発表も問題なく実施できていた。また、オンラインPBLチュートリアル継続に関しては、肯定的な意見が多かった。ただし、グループ討論においては、学生、チューターともに「対面式より劣る」との評価が一定数あった。今後は、オンライングループワークでの討論を活発化させるために、進行(司会)方法や、学生の積極性を促す工夫が必要である。